



市民クラブの山本たけしです。

紅葉の季節もそろそろ終わり。早いもので今年も残りわずかとなりました。

今年は、戦後80年、昭和100年の節目の年ということもあり、年末に近づくにつれ、あらためて一つの時代の区切りを感じるころ。過去と現在、未来は地続きであると言いますが、私たちは激動の昭和、歴史から何を学んだのか。不確定な時代にも通ずるものとして、今一度、自身の胸に置く次第です。

今回のニュースも市議会のトピックスや自身の一般質問を中心にご報告いたします。ぜひご覧ください。



## 令和7年第3回(9月)定例会を開催しました

9月8日から10月9日にかけて開催された令和7年第3回定例会では、令和6年度敦賀市歳入歳出決算認定の件など、市長提出議案21件に加え、議員提出議案「北陸新幹線の早期全線開業を求める意見書」提出の件について審議し、全件可決、認定しました。

## 報告 1

### 敦賀駅周辺の混雑改善に向け、市営駐車場の料金体系を見直し

今定例会にて提出された第82号議案「敦賀市営駐車場の設置及び管理に関する条例の一部改正の件」に対し、私は会派を代表し「賛成討論」をしました。

本条例改正案は、北陸新幹線開業以降続く敦賀駅周辺駐車場の混雑状態を改善することを目的とするもの。具体的には、駅前立体駐車場、白銀駐車場、駅東口駐車場利用のバランスを図るべく、とりわけ、現在利用率の低い白銀駐車場に誘導するため、駅前立体駐車場と白銀駐車場との比較において、60分単価で同額であったのを100円差(駅前を高く)に、全日最大料金を平日100円差はそのままとしつつ、休日で300円差(同)に見直すことは、両者の差別化を図る上において、十分な行動を促す効果が働くものと考えます。

また、改定後の利用料金設定に関しては、駅周辺の民間駐車場5箇所の料金設定に比べ遜色ないものであることや都市機能としての駐車場分配最適化というメリットを広く享受することになることを考えれば、市民あるいは利用者にご負担いただく額として、決して不利益には当たらないと考え、「賛成」した次第です。

新幹線効果を最大限発揮するためにも、敦賀の玄関口で生じている課題を「現段階で改善」しておくことについて、皆様のご理解をお願いいたします。



## 提言 1

### 戦後80年を機に、より広く市民に参加いただける「敦賀市戦没者戦災死没者追悼式」の検討を

冒頭述べたように、先の大戦終結から80年を迎え、国民の9割が戦争を知らない世代となるなか、犠牲となった戦没者戦災死没者に対する追悼の念はもとより、日本海側で最初の空襲であり、敦賀の歴史上、未曾有の惨禍となった「敦賀空襲」などの史実を伝えることは、現世を生きる者の使命と役割であると考えます。

そうした歴史を継承する「敦賀市戦没者戦災死没者追悼式」について、近年では参列者が減少の一途を辿っており、今後の継承について危機感を覚えるところ。私からは、関係者のご意見も踏まえつつ、戦後80年を機に、より広く市民の方に参加いただけるよう、例えば、子ども達からのメッセージなど想いを伝える場を設けることや若い方にボランティアで運営に参加いただくなど、時代に合った新たな考え、発想を取り入れた追悼式を検討いただきたいと意見しました。

また、教育の場においては、戦争体験を風化させずに継承する「語り部」を、敦賀市内の小中学校でも毎年のプログラムに取り込むことを提案したところ、教育委員会からは、「子どもたちが戦争体験を直接聞く機会を通して、戦争の悲惨さや平和の尊さを学ぶ教育の充実に努めてまいる」との考えが示されました。



戦災直後の敦賀市(敦賀市史 通史編 下巻より引用)

## 提言 2 命のバトンをつなぐ「人道の港敦賀ムゼウム」を、世界中の人々の心のよりどころに

「平和という大きなテーマに対して、一人では何もできないように思えることもあるでしょう。しかし、一人ひとりの小さな善意が積み重なって、“命のバトン”はつながれていくのです。私たち一人ひとりの行いは微力ではないということを、次の世代に伝えていけたら幸いです」。

この言葉は、以前に人道の港発信室の方が述べられたもので、まさに「人道の港敦賀ムゼウム」の役割と、私自身感銘を受けたもの。一般質問では、そのムゼウムについて、敦賀港だからこそ伝えられる、世界へ発信するという役割を今後どう進めていくのか確認したところ、文化交流部長からは「今後も様々な角度から敦賀ならではの取組を行い、命の貴さ、平和の大切さを市内外へ向け発信していきたい」との答弁がありました。

また、ムゼウムの価値や役割を市民の皆様と一層広く、深く共有していくことを通じて、敦賀に根差す人道の心を育み、つなぐことが、ひいては郷土愛や誇りにつながると考えることから、今後もそうした考えの下で市政運営に当たっていただくことを切に求めました。

11月3日にリニューアルオープンから5年を迎えたムゼウム。世界中から訪れた方にとって、心のよりどころとなるような、そんな施設に育っていった欲しいと思います。



恒久平和や命、人道とは何かを問い掛ける「人道の港敦賀ムゼウム」  
(2025年11月3日 やまたけ撮影)

## 提言 3 公民館のコミュニティセンター化は、今後の「地域づくり」にどう活かされるのか

既にあらゆる分野での担い手不足が問題となるなか、団塊ジュニア世代が65歳を迎える2040年頃以降は高齢化率が最も高くなります。避けることができない危機を前に、これに備える「地域の基盤づくり」を進めていかなければならないことは、これまでの一般質問でも意見してきたところ。

現在、市では公民館のコミュニティセンター化を前提とした検討が進められていますが、その目的には、地域のコミュニティ形成という概念が強く込められており、私は今回、先に述べた将来に向けて、地域の在り方をどのように創造し、地域づくりを進めようとしているのかなど、市の考える趣旨や方向性等について質問しました。

質問では、これからの地域づくりについて、①地域に対する愛着や帰属意識の醸成、②地域の将来像を考え取り組む意欲の喚起、③住民の主体的参画による地域課題解決の視点という点が重要であり、今回のコミュニティセンター化には、こうした考えが込められているのかについて確認したところ、市長からは、「公民館が地域コミュニティのハード的にもソフト的にも中核的な存在になるような地域づくりを進めていきたい」との答弁がありました。

今後のコミュニティセンター化を注視してまいります。



## 活動スナップ



9月4日

海上保安庁 巡視船「えちぜん」の一般公開



9月12日

敦賀高校での「模擬請願審査」オリエンテーションにて説明



10月7日

連合福井嶺南地域協議会の皆さんと「最低賃金改定」周知のための街頭行動

## 先人への敬意と感謝の念に立って、次の時代へ

古より、その地域を治める長（おさ）の最大の役割とは、当該地域にある固有の歴史や文化、伝統を守り、継承することにあると私は考えます。とりわけ、豊富で悠久の歴史を有する敦賀においては、長い時間をかけて育まれた「敦賀らしさ」を後世に継承していくべきであり、そうした根幹にある思いをもって今定例会の一般質問に臨んだところ。

その上で、今回取り上げたテーマに関しては、ムゼウムが「人道の港」の史実を保存、発信する一方、「戦争」については、80年を経て、先の大戦によって敦賀でも多くの人命が奪われたことへの追悼の意、中心市街地が焦土と化した史実が、このままでは忘れ去られていくのではないかと危機感のもと、

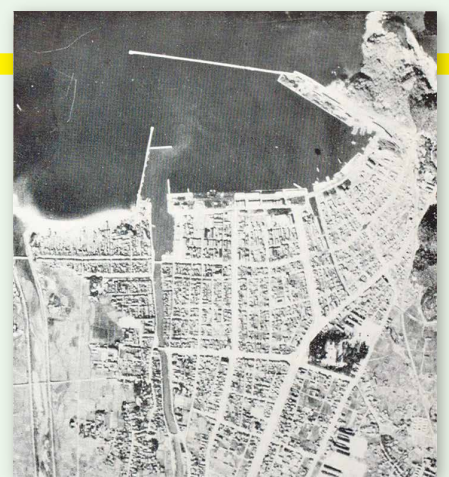
意見した次第です。

そうしたなか出会ったのは、先の戦災から10年にあたる、昭和31年に編纂された「敦賀市戦災復興史」序文にあった川原与作敦賀市長（当時）の言葉。

「懸案の郡市合併も実現を見て、一躍人口五万の大都市となった。（中略）これらは全て敦賀全市民の、血みどろの奮闘と、弛まない協力の賜物である。」

戦後80年、昭和100年。

激動の時代も郷土を守り、発展させてきた先人に深く敬意と感謝の念を刻み、次の時代へつなぐべく、今を生きるのみであります。



復興した敦賀市街（昭和29年11月撮影）  
—「敦賀市戦災復興史」より引用—

ちょっとひとこと。

